

菊池 ^{しげる} 秀 さん（平成4年卒）

東北銀行原中支店 次長

◇お仕事の内容を教えてください

東北銀行の支店の次長兼渉外課長として融資業務や資産運用に関する業務を行っています。

◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

銀行員は預金を集めたり企業に事業資金を融資したりといった“お金”に関する仕事をしていると思われがちですが、最近の自分の仕事を振り返ってみると、売上が伸びないと悩むお客様と一緒に改善計画をつくったり、新たな販売先や仕入先を紹介したり、経費削減のために保険を見直してみてもうどうだろうかと考えたり、まるでお客様の会社の一員になったかのように、いま何ができるのかを考えることが増えています。

その結果、経営が軌道に乗りお客様から感謝されたことが喜びですと言いたいところですが、それにも増して「銀行」というものが、すべての業種や仕事と関わることのできるいちばん幅が広い職業であるということに喜びを感じています。

通常であれば学校を出て就職すれば転職もしない限り同じ仕事を続けるわけですが、銀行員は、今日は建設業、明日は小売業、その次は製造業といったように日替わりで様々な業種と関わることができます。実際に入社しなくても、先に述べたように自分がその会社のために何ができるのかということを経営者の方々と同じ目線で考えることができるのです。あれもこれもやってみたいと思っていた自分にとってはうってつけの仕事であり、お客様の会社の成長とともに自分も成長することができる働きがいのある仕事であると感じています。



◇将来の夢を教えてください

銀行員としての夢を乗り越えて第二の人生の夢になってしまうのですが、農業に従事したいと思っています。実家が稲作農家で幼い頃は田植えや稲刈りを手伝っていましたが、大きくなるにつれ農業と関わることもなくなっていました。しかし、就職し何度か転勤する中で、会社を立ち上げ先進的な農業経営に取り組む方、育てた農産物を自ら加工し販売まで行っている方、質の高い肉牛を育てブランド化を目指す方など、農業に熱く取り組む方々との出会いがありました。様々な業種の方々と仕事をさせていただいているのですが、なぜか農業が気になり、自分には帰る場所があるのではと思うようになりました。十年後二十年後になるかもしれませんが、地元を盛り上げる何かができれば良いなと考えています。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

通学に一時間以上かかることに加え、軟式テニス部に所属していたのですが常盤台のコートが遠くて遠くて、家に帰ると21時過ぎといった毎日でした。遠方だったことが理由なのか30年以上前の高校生の私の気持ちは今となってはわかりませんが、学校を休みがちになり、教室から職員室に自分の机を持って行って担任の先生の横で「きちんと学校に来ます」という反省文を書いたのは良い思い出です。

勉強についても得意科目はとことん勉強するのですが苦手科目は常に赤点といった始末で、先生方には3年間にわたって迷惑のかけっぱなしでした。でも専北はそういう自分をすべて受け止めてくれたという感謝の気持ちでいっぱいです。

良く言えば長所を伸ばしてくれた、正直に言えば目をつむってもらったということになるでしょうか。他の高校だったら3年間続いていなかったし、今の自分もなかったと思います。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

何かをやりたくて専北に入ってきた人もいるでしょうし、やりたいことを見つけるために入ってきた人もいるでしょう。勉強でも部活でもなんでもいいので、卒業の時に自分がやりたいことをやったと思える3年間にしてください。自分ができなかったからこそ皆さんにはお願いしたいです。

将来の仕事については、昔と違ってひとつの仕事にこだわる必要のない時代なのだと思います。まずは挑戦してみて違うと感じたら軌道修正もアリなのではないでしょうか。

☆取材後記

金融機関の渉外業務の大変さと楽しさをわかりやすく説明して下さった菊池さん。

ご自身が担当する事業者さんの復活・成長に向けて、共に汗をかき、共に喜ぶ菊池さんの様子が目に浮かびました。金融業に興味を持った専北生も多いのではないのでしょうか。

このコロナ禍の中、益々、重要性が増すお仕事だと思います。

菊池さん、健康に留意され、益々のご活躍を！（担当：Y）